

1680 | 工芸教育法Ⅰ

2 単位 (通信授業 2 単位)

大坪圭輔教授

授業の概要と目標

人としての身体機能の低下は、多方面から指摘されている。その中で「手仕事」や「もの作り」の教育についての再評価の動きが強まっている。手工教育として明治期に導入された日本の工芸教育は、スロイドシステムに大きな影響を受けている。またその教科性から、手工教育は国策とのつながりも強い。ここでは手工教育の具体的な目的や内容を明らかにすることによって、現在の工芸教育の位置付けを考察する。また、構成教育や国民学校での実践などへも視野を広げ、「手仕事」の持つ教育的な意義を考え、工芸教育の理念を構築できるようにする。

課題の概要

○通信授業課題 1

身近な幼稚園児、もしくは小学校児童の工作作品 2 点を取り上げ、工芸教育の視点から解説する。

実際にその子どもが制作しているところを観察するほうが望ましいが、雑誌や各種教科書、WEB サイトなどに掲載されているものでもよい。作品のコピーを添付し、子どもの年齢や性別、出典などを明示すること。

○通信授業課題 2

教科書『工芸の教育』第 3 章手工教育の変遷・第 2 節手工教育のはじまりとしての「思物」に示されている「フレーベル思物」について調べ、その意義と現代の知育玩具等とを比較考察する。

* 課題については学習指導書『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

教科書『工芸の教育』「第 3 章手工教育の変遷」の中から、下に示すような手工教育、工芸教育に関する事例を取り上げて学修する。また、小学校図画工作科における子どもの発達の様相及び、工作指導について理解を深め、上級学校での工芸教育の理念や目的について考察する。

- ・『工芸の教育』「第 3 章手工教育の変遷」／思物、ネース講習、構成教育、国民学校令
- ・『小学校学習指導要領解説 図画工作編』 工作領域の学習の目的と内容
- ・『中学校学習指導要領解説 美術編』 工芸領域の学習の目的と内容
- ・『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』 工芸科の学習の目的と内容

成績評価の方法

◎科目試験

上記授業内容から出題する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4 年次

[履修条件] 教職課程 (高校 1 種 [工芸]) に登録していること。

[備考] なし

教材等

教科書：大坪圭輔『工芸の教育』(武蔵野美術大学出版局 2017 年)

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』(日本文教出版 2008 年)

文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』(日本文教出版 2008 年)

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』(教育出版 2009 年)

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』

(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年)

* スクーリング時にセット販売

文部科学省検定済 小学校教科書

『ずがこうさく 1・2 上』『ずがこうさく 1・2 下』『図画工作 3・4 上』『図画工作 3・4 下』

『図画工作 5・6 上』『図画工作 5・6 下』(開隆堂出版)

その他

参考書：大坪圭輔、三澤一実編『美術教育の動向』(武蔵野美術大学出版局 2009 年)

三澤一実監修『美術教育の題材開発』(武蔵野美術大学出版局 2014 年)

大坪圭輔『美術教育資料研究』(武蔵野美術大学出版局 2014 年)